

もくじ

P4 い い なお すけ
井伊直弼

VS

とく がわ なり あき
徳川齊昭 P5

P16 し ぶ さわ えい いち
渋沢栄一

VS

いわ さき や た ろう
岩崎弥太郎 P17

P6 てん しょう いん あつ ひめ
天璋院篤姫

VS

せい かん いんのみや
かすのみや
静寛院宮
(和宮) P7

P18 ふく ざわ ゆ きち
福沢諭吉

VS

おお くま しげ のぶ
大隈重信 P19

P8 こん どう いさみ
近藤 勇

VS

ひじ かた とし ぞう
土方歳三 P9

大正時代の光と影 かげ P20～P21

P10 さい ごう たか もり
西郷隆盛

VS

おお く ぼ とし みち
大久保利通 P11

P22 やなぎ た くに お
柳田國男

VS

おり くち し の ぶ
折口信夫 P23

P24 よし だ しげる
吉田 茂

VS

はと やま いち ろう
鳩山一郎 P25

P12 い とう ひろ ぶみ
伊藤博文

VS

やま がた あり とも
山縣有朋 P13

P26 しら す じ ろう
白洲次郎

VS

しら す まさ こ
白洲正子 P27

P14 つ だ うめ こ
津田梅子

VS

にい じま や え
新島八重 P15

歴史人物ライバル対決Q&A

はくまつ
幕末～昭和時代

P28～P29

い い な お す け 井伊直弼

日本を守るために
開国を決断した男

井伊直弼がアメリカと結んだ「日米修好通商条約」は、輸入品の関税を日本が決めることができないなど、不平等条約として知られています。一方で西欧諸国と日本の間に揉め事が起こった場合は、アメリカが仲介すると明記されていました。条約を結ぶことで、アヘン戦争後の清国のように西欧諸国の植民地となる危険を取り除けると直弼は考えました。攘夷派による内乱より、西欧諸国の方が脅威だと彼は考えたのかもしれない。



彦根藩主から江戸幕府の大老となりました。直弼は14男で、本来であれば日の当たらない一生を送るはずでした。運命のいたずらから藩主となり、能力を評価され幕閣となります。彼は自分本来の立場をよく知っていました。禅の教え「足る事を知りて楽しむ快樂ならでは実の楽しみにあらず」は彼の信条。堅実な性格だったそうです。彼は、日米修好通商条約は開国を迫る諸国との問題を平和的に解決する手段と考え、独断で条約を締結します。幕府の独断は、朝廷の強い反発を招き、尊王攘夷運動は激しくなっていました。直弼は攘夷派の徳川斉昭を政治の場から追放します。また攘夷を唱える人々の多くを処罰しました（安政の大獄）。直弼は桜田門外で水戸浪士により暗殺されますが、開国派も攘夷派も国を守ろうとする気持ちは同じはずでした。暴力で歴史の流れを変えることはできない。この事件は時を経て、それを教えているのかもしれない。

と く が わ な り あ き 徳川斉昭

維新の芽を育んだ
徳川家の男



斉昭は政治的に井伊直弼と激しく対立しましたが、彦根藩の特産物である「牛肉の味噌漬け」が好物だったそうです。彦根藩は代々徳川家に「牛革（武具の製造用）」を納める義務があり、その副産物として牛肉の味噌漬けもいっしょに献上していました。それは御三家水戸藩にも献上されており、「今年は献上品が届くのが遅い」と書かれた記録もあるそうです。牛肉は、斉昭の力強い行動力の源だったのかもしれない。

水戸藩9代藩主。徳川家最後の将軍15代徳川慶喜の実父。藩政改革に努め、名君と呼ばれました。藩士の教育に熱心で、藩校弘道館を設立します。能力のあるものは身分の上下を問わず取り立てますが、一方で礼儀作法に厳しい人物でした。質素儉約が信条。水戸徳川家は水戸光圀が「大日本史」を編纂した影響もあり、独自の思想がありました。斉昭はそれを「水戸学」と呼ばれるまで突き詰めていきます。日本は古代から神国であり、神を祀ることのできる天皇が国の中心であるという考え方で、武家は天皇の臣下として統治を任されているにすぎないというものです。斉昭は、神道は仏教よりも尊く、キリスト教はよくない教えと考え、強い攘夷思想を持っていました。やがてそれは維新の芽となっていきます。

てんしょういん あつひめ 天璋院篤姫

とくがわ け めつぼう
徳川家を滅亡から守った
グレートマザー

江戸総攻撃が近づく中、篤姫は西郷隆盛に嘆願書を送ります。誰がこの戦いの鍵を握っているのか、篤姫は正確に判断していました。篤姫の予想通り、西郷は敬愛する島津斉彬の娘（養女）である篤姫の言葉を無視することはできませんでした。江戸城無血開城は西郷隆盛と勝海舟の会談で決まったとされていますが、その陰には篤姫と和宮（和宮も官軍に講和の嘆願書と使者を送っています）が影響していたことは間違いないと思われます。



徳川13代将軍家定の正室（御台所）。薩摩藩出身。大奥といえば女性たちが着飾り、権力と寵愛を競う場所というイメージがありますが、実際の大奥は徳川家一門の存続を支える女性だけの仕事場であり、御台所はその頂点に立つ存在でした。篤姫も実家の思想（攘夷）と幕府の政策の間を調整する役目を負って嫁ぎました。篤姫は気丈で、自己主張が強い性格でした。彼女は他人の入れ知恵や思惑に左右されず自分の考えで動きます。その中には嫁の和宮との反目もありました。いくら天皇の妹であっても、嫁いだ以上は武家のしきたりを守るべきと思っていたようです。しかし二人は幕府が滅亡の危機を迎えると協力し合います。篤姫自身に子どもはいませんが、徳川家を存続させた偉大な母といっても過言ではないでしょう。

せい かん いんのみや かずのみや 静寛院宮(和宮)

ばん じ ご しょうふう つらぬ こうじょ
万事御所風を貫く皇女が
最後に守ったもの



「天璋院へ」事件。和宮が嫁いで間もない頃、姑の天璋院への贈答品の上書きには「天璋院へ」と書かれていました。敬称抜きの上書きに天璋院側の女中たちは、激怒します。後日、天璋院のもとに招かれた和宮の座には「褥（敷物）」がなかったそうです。仕返し合戦のように対立していた二人でしたが、大政奉還をしたにもかかわらず、徳川家を潰そうとする勢力から徳川家を守ることで意見が一致します。晩年の篤姫と和宮は、ともに相手を思いやり、親しく交流があったと伝えられています。

徳川14代将軍家茂の正室。孝明天皇の妹。小説などでは公武合体のため、泣く泣く徳川家に嫁がされた悲劇の皇女として描かれることが多いのですが、本当にそうだったのでしょうか。和宮は淑やかでしたが、芯が強く、冷静で判断力に優れていたと伝えられています。徳川幕府が崩壊の危機を迎える中、万事御所風を通す条件で、いわば敵地ともいえる徳川家に嫁いでいくことは、運命だとしても簡単にできることではありません。大奥入りした和宮は、夫家茂とも上座下座の区別をつけず並んで座ります。御台所という名称も嫌い「宮様」と呼ばせました。衣装、髪型、化粧法も武家とは違ったそうです。和宮は常に皇女としてふるまうことが威厳を保つ方法であると考えていたのかもしれない。